

第 6 回 ESG 金融ハイレベル・パネル

ESG 金融の取組みについて

2023年3月7日

株式会社 群馬銀行

常務執行役員 総合企画部長

齊藤 秀之

群馬銀行グループ「パーパス」 ～私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます～

【概要（2022年3月末時点）】

| | |
|------|--|
| 総資産 | 11兆1,269億円 |
| 預金 | 7兆9,704億円 |
| 貸出金 | 5兆8,181億円 |
| 拠点数 | 国内：158店舗（県内110、県外48） 海外：1店舗、4駐在員事務所 |
| 従業員数 | 4,502人※ ※連結（臨時従業員等含む） |

長い歴史の中で地域社会の発展を常に考え行動。2022年創立90周年を迎えました。



1878年 第39国立銀行設立
<当行の源流>




1932年 群馬大同銀行
<創立>



1955年改称
現在の本店（前橋市）

グループ会社一覧 ～グループ内連携強化で幅広い課題やニーズに対応

 **ぐんま地域共創パートナーズ**
Gunma Regional Advanced Solution Partners
経営支援を通じて地域の価値を創造する

 **ぐんぎん証券**
株式・債券など多様な
資産運用ニーズへ対応

 **ぐんぎんコンサルティング**
個社ごとの課題に最適なソリューションを提供

 **ぐんぎんリース株式会社**
GUNGIN LEASING CO., LTD.
効果的な設備導入ニーズへ対応

 **ぐんぎんシステムサービス株式会社**
Gungin System Service Co., Ltd.
システム化による生産性向上を支援

群馬信用保証株式会社
住宅や車などお客様の夢をアシスト

株式会社 **群銀カード**
決済多様化やキャッシュレスを実現

群馬中央興業株式会社
運送・保守により銀行インフラを支える

当行をとりまく環境①～群馬県の魅力～

■ 群馬県の主な特徴

- ・ものづくりと世界に誇る技術力、発達した交通網
- ・本州のほぼ中央、首都東京から約100kmに位置
- ・豊富な水資源（利根川の水源地で首都圏の水がめ）
- ・安定した気候と少ない地震災害
- ・「首都圏の台所」として、多彩で多様な農業が展開

恵まれた自然条件

- ✓ 低い地震災害リスク
100年で震度4以上は73回と他県と比較し地震が少なく（関東で最少）工場や産業施設の立地に有利な条件を備える
- ✓ 低い水害リスク
過去10年間（2011年～20年）の水害被害額は、関東の他6都県の平均を大きく下回る（群馬県：560億円、関東他6都県：1,775億円、全国1,577億円）。
出所：国土交通省 令和2年水害統計調査
- ✓ 恵まれた日照時間
年間の日照時間の長さが全国5位と上位

○ 工場立地件数 全国順位

| 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 3位 | 2位 | 2位 | 4位 | 4位 | 4位 |

- ・安定操業が可能な本県への本社移転や主力工場の移転など企業進出が進む
⇒ NTT株式会社、日本ミシュランタイヤ株式会社、株式会社イトアンドフーズ等

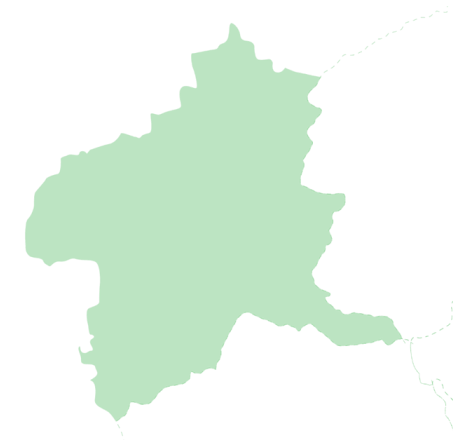
出所：群馬県「群馬県のIR資料(令和4年5月版)」一部加工
群馬県産業経済部「ぐんまがいちばん!(令和3年3月)」



当行をとりまく環境②～群馬県のポテンシャル～

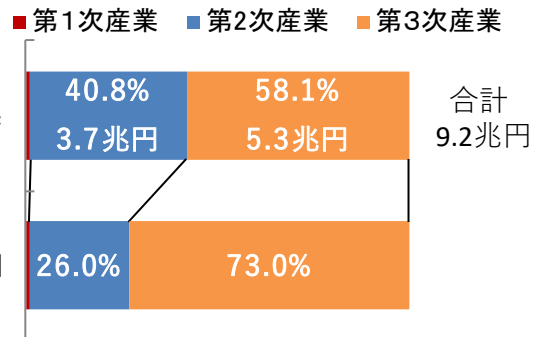
群馬県の主要データ

- ✓ 人口 **192.7** 万人 (全国18位)
- ✓ 1人当たり県民所得 **3,298** 千円 (全国8位)
- ✓ 有効求人倍率 **1.54** 倍 (全国14位)
- ✓ 県内総生産 **9兆2,822** 億円 (全国15位)
- ✓ 工場立地件数 **49** 件 (全国4位)
- ✓ 農業出荷額 **2,463** 億円 (全国14位)

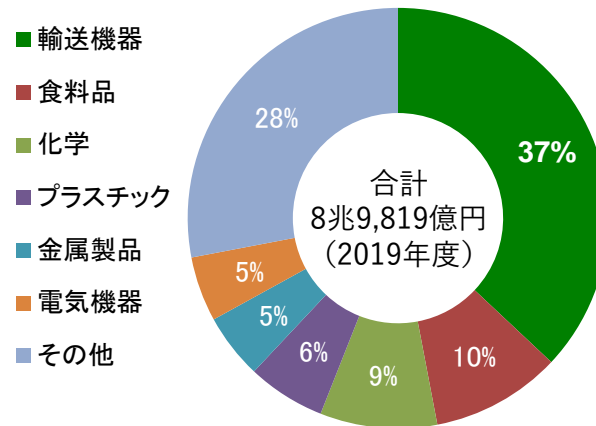


群馬経済を牽引する製造業

～産業別名目県内（国内）総生産（2019年度）～



～製造品出荷額等の内訳～



～輸送用機械生産比率～
(対県内総生産)

| 順位 | 都道府県 | 生産比率 |
|----|------------|--------------|
| 1 | 愛知県 | 16.4% |
| 2 | 群馬県 | 10.3% |
| 3 | 静岡県 | 9.6% |
| 4 | 三重県 | 6.1% |
| 5 | 広島県 | 5.9% |
| 6 | 岐阜県 | 4.5% |
| 7 | 栃木県 | 4.4% |
| 8 | 山口県 | 4.0% |
| 9 | 茨城県 | 4.0% |
| 10 | 岡山県 | 3.8% |

※2019年度データ

出所：群馬県「群馬県のIR情報(令和4年10月版)」
 「2019年度 群馬県県民経済計算」
 2020年工業統計（確報）

■ 当行の温室効果ガス排出量削減目標

2030年度 ネットゼロ

(2024年度 2013年度比50%削減 ※中期経営計画目標)

削減に向けた取組み

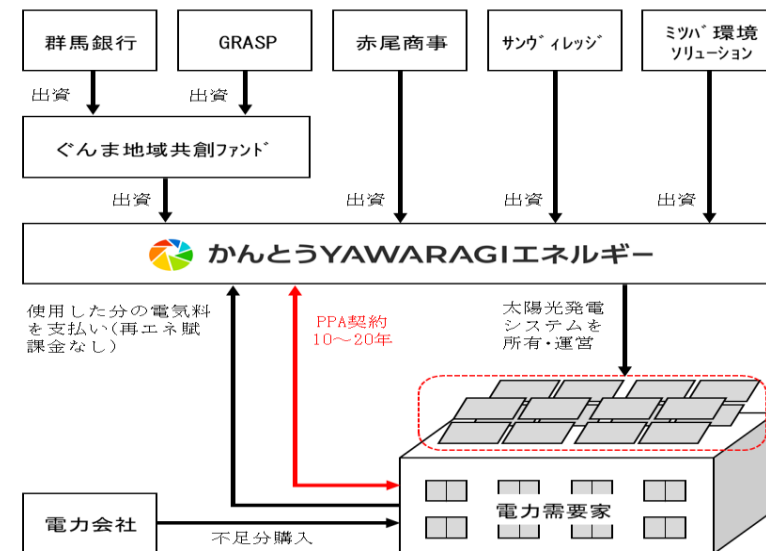
- ・ 2022年4月より、本店ビルの電力を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えている。今後も、再生可能エネルギー由来の電力導入を進めていく。また、太陽光発電設備設置の店舗を増やしていく。
- ・ 電気自動車を全店へ導入していく（100台程度）。※創立90周年記念事業の一環

【当行排出量と削減目標】



■ 地域発電会社「かんとくYAWARAGIエネルギー(株)」の設立

- ・ 投資専門子会社「ぐんま地域共創パートナーズ(株) (GRASP)」が運営するファンドを通じ、地元の事業者とともに再生可能エネルギー発電を中心事業とする地域発電会社を共同設立。
⇒ 当社によるPPAの仕組みを活用して、未利用地や施設の屋上・屋根等に太陽光発電設備を設置するなど、地域主導・貢献型の脱炭素化の取組みを進めていく。



■ サステナブルファイナンス累計実行額目標

2030年度 1兆5,000億円（うち環境分野1兆円）

（2024年度 5,000億円（うち環境分野3,000億円） ※中期経営計画目標）

※2022年度以降の累計実行額。サステナブルファイナンスは、環境課題（再生可能エネルギーや省エネ設備等）や、社会課題（創業、事業承継、医療等）の解決に資するファイナンスを対象としている。

SDGs取組支援サービス

- ・地域の企業に対し、SDGsへの取組みを浸透させるとともに、お客さまのSDGsの取組状況を客観的に評価することで、SDGsを起点としたコンサルティングやファイナンス等、お客さまの本業支援につなげていく。



ソリューション提案を起点としたファイナンス

サステナビリティ・リンク・ローン、ぐんぎんSLL
SDGs私募債、ストラクチャー付コベナンツ融資
再生可能エネルギー向け融資
震災時・豪雨災害時元本免除特約付き融資 等

取組みの背景・目的

- 群馬県の製造品出荷額の約4割は自動車などの輸送機器が占める。
- (株)SUBARUが国内唯一の完成車工場を群馬県内に有しており、同社向けを中心としたサプライヤーが県内に集積し、地域経済の中核を担っている。
- 世界的な脱炭素化に伴う自動車のEV化シフトは、地域産業・経済に大きなインパクトを与える。
- 当行では、自動車関連産業の持続可能性向上に向けて、サプライヤーに寄り添った中長期的な伴走支援を実現するために、自動車メーカーOBを招聘するなど、サプライヤーへのサポート態勢の拡充に努めている。
- 2021年度からは、県内サプライヤーに対して、保有技術・設備や特性などの個社別ヒアリングを行い、当行保有情報と合わせて、データの蓄積や各社の現状分析を行っている。

これまでの取組み

| 項目 | 概要 |
|-------------------------|--|
| サプライヤーのデータベース作成 | <ul style="list-style-type: none">・ サプライヤー171社の主要取扱製品や保有技術・設備等に関するデータベースを整備 |
| ヒアリングの実施 | <ul style="list-style-type: none">・ データベースを作成した171社のサプライヤーのうち、34社（Tier1：13社、Tier2：21社）に対して、支店長による個別のヒアリングを実施・ ヒアリングは、Tier1向け、Tier2向けでシートを分け、技術面や管理面を中心に約40間による調査を実施 |
| 個社別データシート、ポジショニングマップの作成 | <ul style="list-style-type: none">・ ヒアリング結果等に基づき個社別データシートを作成し、技術力や管理力を評価することでサプライヤーの位置付けが分かるよう、ポジショニングマップを作成 |

■ 個社別データシート（概要）

【個社別データシート】

The image shows a complex data sheet with multiple tables and sections. The top part contains a header with company information and a 'View 1' label. Below this, there are several tables with columns for various data points. Some cells are highlighted in yellow. There are also some text boxes and a small chart area on the left side. The overall layout is dense and organized into a grid-like structure.

《記載内容》

- ・ 主要製品・出荷数
 - ・ 自動車向け比率
 - ・ メーカー別比率
 - ・ 保有技術
 - ・ 保有設備
 - ・ CASE対応状況
 - ・ 電動化の影響
 - ・ 生産管理、在庫管理状況
 - ・ IT活用状況
 - ・ 認証取得
- など

※個社情報があるため加工しています。

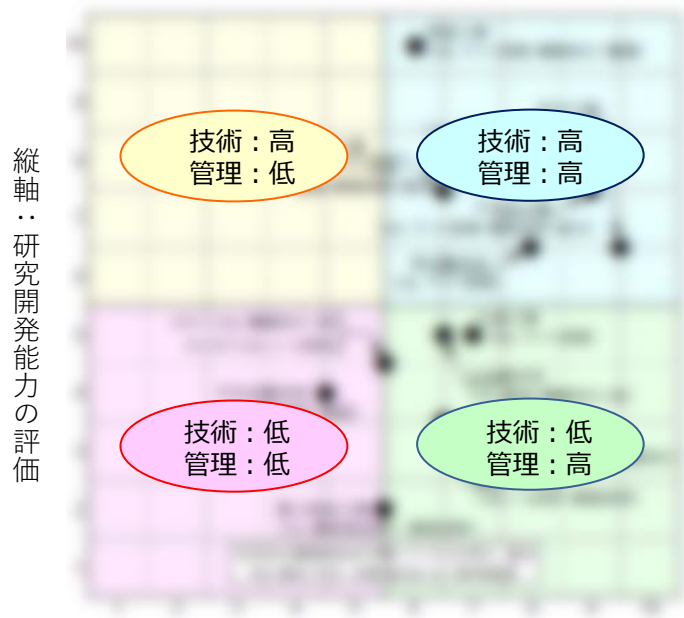
■ ポジショニングマップ（概要）

- Tier1企業は、縦軸を研究開発力評価とし、CASE対応や電動化の影響を加味して評価。
- Tier2企業は、縦軸を保有する加工技術の難易度とし、軽量化技術の有無などを加味して評価。
- 横軸は、Tier1、2ともに各種管理面を評価。

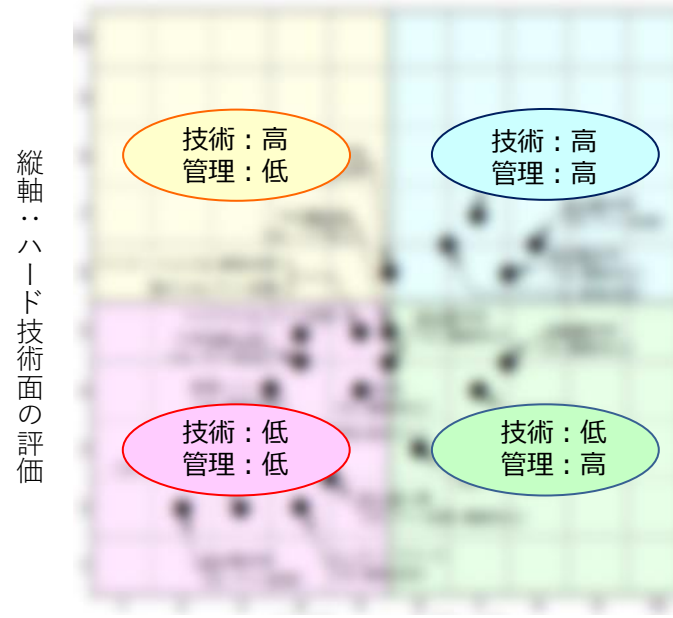
| 評価軸 | 縦軸 | 横軸 |
|-------|---|---|
| Tier1 | ①基礎的な研究・開発力 ②CASE対応・電動化の影響 ③完成車メーカーとのパイプ ④MBD※開発手法への対応可否 | ①QCDレベル ②収益力、効率性 ③計画的な設備投資能力 |
| Tier2 | ①加工技術の難易度 ②軽量化開発技術の有無 ③設備の自動化率・IT化率 | ①受注・生産管理、管理会計 ②工程・品質管理、現場管理 ③経営能力 |

※MBD：モデルベース開発

【Tier1企業】

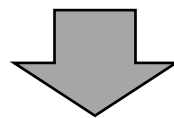


【Tier2企業】



課題認識

- 個社別データシートやポジショニングマップで分析したヒアリング先に対する結果の還元や課題共有、脱炭素化への意識醸成等を図っていくための還元資料の作成（取引先との認識合わせ、意識醸成）
- 具体的なサポートメニューの検討（生産性向上、新事業創出、温室効果ガス排出量測定、削減支援策など）
- (株)SUBARUや自治体、他行等との連携強化



令和4年度 ESG地域金融促進事業

事業名称

「自動車サプライヤーのサステナビリティ向上にむけた地域と連携した支援策の検討」

主な取り組み内容

【還元資料の作成】

- ・自動車産業をとりまく国内外の技術動向や外部環境情報の共有・整理
- ・個社別データシートやポジショニングマップ等からの還元事項の整理
- ・企業の公開情報や外部環境、ヒアリング情報等を基に当行が作成した電動化に対する複数シナリオのレビュー
- ・個社別課題の抽出・整理

【エンゲージメント実施体制の構築】

- ・継続したエンゲージメント実施に向けたPDCAサイクルの構築
- ・個社別課題に対する支援メニューの検討

■還元資料（概要）

外部環境

- ・CASEの概要
- ・CASEにより影響を受ける部品や新規に求められる部品について
- ・自動車電動化の動向（EV販売台数の推移、世界のマーケットの状況）
- ・世界の脱炭素に向けた動き（各国のCN目標、規制対応）
- ・他社事例（脱炭素化、電動化）

電動化シナリオ

- ・公開情報や外部環境等を基に作成した複数シナリオ
- ・売上や製品への影響予測

ヒアリング内容
のまとめ

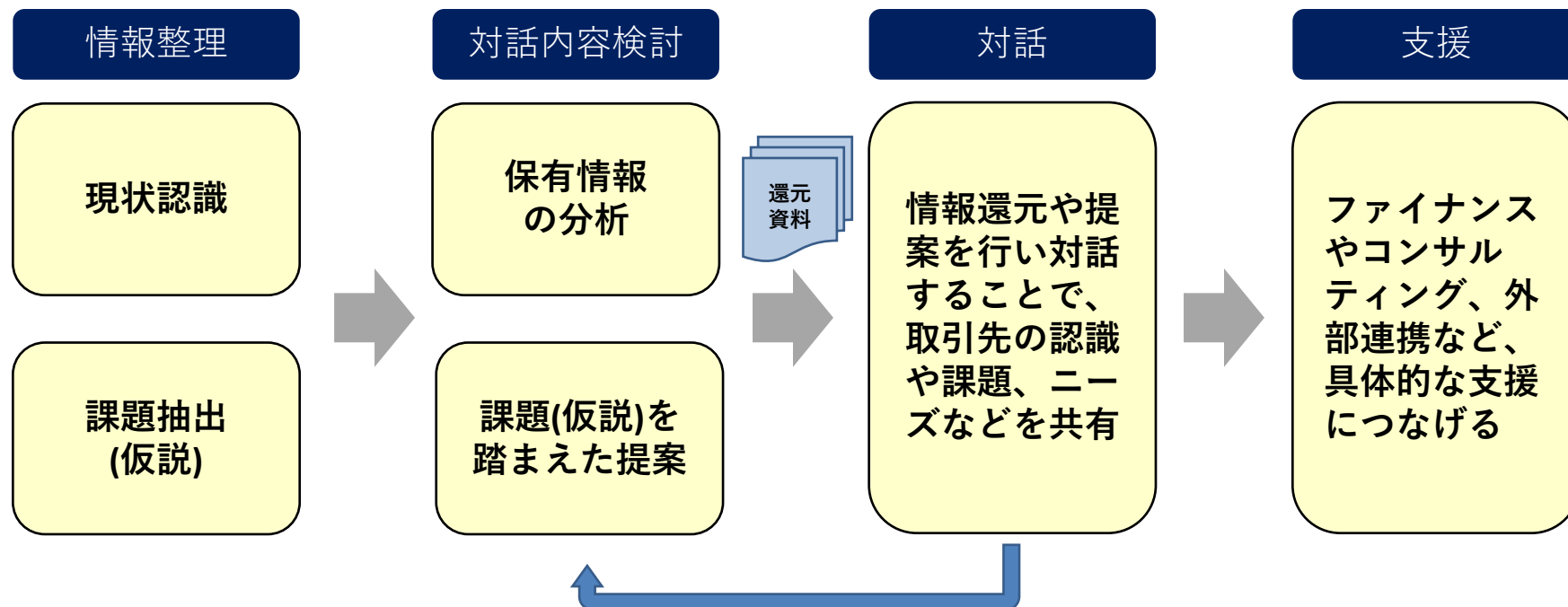
- ・ヒアリングを行った各サプライヤーの取組み状況のまとめ
- ・サプライヤー全体から見た当社の位置付け
- ・自社製品動向等の考え方に対する当行からの意見

課題の確認、
支援内容の提案

- ・当行が考える当社の中長期的な課題（仮説）
- ・課題に対する提案内容

■ エンゲージメント実施体制

- ・エンゲージメント実施を重ねることで、当行に知見を蓄積していくとともに、各取引先に応じた中長期的な伴走支援に取り組んでいる。
- ・また、中小企業については、脱炭素化への意識が低い会社も多いことから、「気づき」を与えるための情報提供を行う等、カーボンニュートラルに向けた啓蒙活動を行っている。



より実効性のある個社別支援に向けて、取引先との対話により得られた情報を基に提案内容等を再考し、対話を繰り返す

現状/今後の取組み

項目

概要

還元資料
の作成

- ・作成した個社別データシートやポジショニングマップ等について、フィードバックすべき情報等の検討を行い、外部環境や国内外の技術動向等も織り込んだ還元資料を作成

エンゲージメント
の実施

- ・ヒアリングを行った34社への個別エンゲージメントのスタート
- ・各ポジションにおける還元資料のブラッシュアップ、パターン化の検討

エンゲージメント先
の拡大

- ・還元資料を使用し、エンゲージメント先を34社以外にも拡大

外部機関と連携した
具体的な支援策の
検討・実施

- ・個別エンゲージメントを踏まえ、中長期的に想定されるリスクの緩和や、機会の獲得にに向けたサポート策を検討
- ・検討・実施にあたって外部機関との連携を強化

本事業での取組み

本事業後の展開

- ・サステナビリティへの取組みを充実させていくために、他金融機関や群馬県との連携強化を図っていく。

広域連携



- ・全国の地方銀行10行との広域的な連携
参加銀行：千葉銀行 第四北越銀行 中国銀行 伊予銀行 東邦銀行
北洋銀行 武蔵野銀行 滋賀銀行 琉球銀行 群馬銀行

地域連携



- ・隣接した地理的特性を活かした地域貢献および両行の持続的な企業価値向上を目的とした連携



- ・営業エリアが重複する両毛地区を中心とした地域産業の活性化やお客さまサービスの向上を目的とした連携

群馬県との連携

- ・群馬県産業経済部や自動車サプライヤー支援センター(※1)等との連携により、行政と一体になった自動車産業支援を強化していく
- ・また、群馬県グリーンイノベーション推進課や、同課が主導して立ち上げ当行も参加している「革新的環境イノベーションコンソーシアム」(※2)との連携により、地域の脱炭素化に対する意識を醸成していく等、地域のカーボンニュートラルに向けた取組みを強化していく

※1：CASEやカーボンニュートラルへの対応等、時代に即した地域サプライヤー群の育成を目的に群馬県産業支援機構が2021年に開所。(株)SUBARUをコーディネーターに加え、日立Astemo(株)の技術者を受け入れる等、支援体制を強化している。

※2：民間企業、金融機関、インフラ事業者、大学・研究機関、行政機関を参加メンバーとし、脱炭素化に関して、地域の再生可能エネルギーや新技術の導入促進と地域課題解決およびイノベーション創出に向けた異業種・同業他社との交流の場。

ご清聴ありがとうございました

